

## 平成30年度の山部会の活動進捗報告

### 1. 山部会の目標とテーマ

山部会の活動のテーマと解決手法を以下に示す。

| <テーマ>        | <解決手法>                           |
|--------------|----------------------------------|
| 流域圏担い手づくり事例集 | 森林の適切な管理は山村再生が重要。まずは人づくりに取り組む。   |
| 山村ミーティング     | 山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。        |
| 森づくりガイドライン   | 流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。 |
| 木づかいガイドライン   | 矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。     |

#### 《3ヶ年の目標》

- WGの中で流域圏担い手づくり事例集(山村再生担い手づくり事例集)について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係とを連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

## 2. 今年度の活動実績

| 活動内容                    | 日時                             | 場所                   | 議題  |
|-------------------------|--------------------------------|----------------------|---|
| 第46回WG<br>(根羽) 10名参加    | 5月18日(金)<br>～19日(土)<br>9:00-   | 根羽村老人福祉施設<br>「しゃくなげ」 | ○昨年度の山部会の成果と今年度の予定について<br>○懇談会の規約・懇談会の運営サイクルの見直しの必要性について<br>○テーマ別活動計画について   |
| 第47回WG<br>(豊田) 19名参加    | 6月8日(金)<br>13:30-17:00         | 豊田森林組合 会議室           | ○テーマ別進捗報告・意見交換<br>○故 原田裕保氏をしのぶ<br>○新・豊田市100年の森づくりについて<br>○さくしま陽春のエコツアーの結果報告について   |
| 第48回WG<br>(恵那) 18名参加    | 7月6日(金)<br>14:00-17:30         | 恵那市役所明智振興事務所 会議室     | ○テーマ別進捗報告・意見交換<br>○矢作川流域(恵那農林事務所管内)の治山事業・森林譲与税に関する情報共有と意見交換   |
| 第1回合同部会WG<br>(岡崎) 43名参加 | 8月24日(金)<br>13:30-17:00        | 岡崎市宮崎学区市民ホーム         | ○アサリの漁獲量減少と海の栄養塩に関する研究事例<br>○水質浄化に関する最近の研究事例<br>○電気伝導率からみた矢作川本川の水質実態と流域構造の特徴<br>○矢作川中流域の水質 ―水質の長期変動と他河川との比較―<br>○植生遷移に伴う水質の変化 ―東大演習林における事例― |
| 第49回WG<br>(岡崎) 16名参加    | 11月16日(金)<br>～17日(土)<br>14:00- | 額田センター「こもれびかん」集会室A・B | ○テーマ別進捗報告・意見交換<br>○岡崎市の森づくりの進捗報告<br>・第9回矢作川森の健康診断の実施状況<br>・水循環施策関する進捗報告   |
| 第50回WG<br>(豊田) 11名参加    | 12月7日(金)<br>～8日(土)<br>14:00-   | 豊田市下山交流館11会議室        | ○テーマ別進捗状況・意見交換<br>○豊田市の森づくりのための人材育成<br>○森林路網の設置が及ぼす植物種の多様性について(根羽村)   |
| 平成30年度まとめの会(岡崎)         | 1月29日(火)<br>13:30～16:30        | 西三河総合庁舎7階第704会議室     | ・今年度の活動進捗報告<br>・山部会9年間の実績と成果<br>・次年度の活動計画   |

※参加人数は事務局含む

### 3. 山部会平成 30 年度の活動成果 まとめ

#### 流域圏担い手づくり事例集

##### 【成果①】

- ・ これまでに作成した流域圏（山村再生）担い手づくり事例集の取材先の団体と取材者を対象とした交流会を昨年につづき4月に行った。新たな発想の展開や人間関係を育む場として、有意義なイベントになった。また、川や海部会の出席者も加わり、近年の漁獲量の減少（特にアサリ）においてはそれぞれの立場から積極的な意見交換が行われた。この議論が合同部会設置のきっかけとなった。



事例集交流会の様子

##### 【成果②】

- ・ 昨年度につづき川部会のテーマである地先モデルと協働して、流域の発展に寄与する団体の取材を行った。

##### 【成果③】

- ・ 流域圏担い手づくり事例集を作成するため、山に関係する16団体、川に関係する8団体、合計24団体を訪問し、レポートの作成を行った。



取材時の様子（愛知・川の会）

##### 【成果④】

- ・ 事例集作成に関わった取材先と取材者を中心とした交流会を次年度も実施することになった。

#### 山村ミーティング

##### 【成果①】

- ・ 流域の林業の担い手がおかれている実態の把握と改善の糸口をつかむため、前年度につづき根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合の作業班を中心とした100人ヒヤリングを行った。12月までに半数が終わり、中間報告や今後のヒヤリングに向けた準備をしている。



流域の森林組合集合写真

##### 【成果②】

- ・ 矢作川感謝祭では、根羽村、恵南、豊田、岡崎の流域4つの森林組合が一堂に会して森づくりや木づかいのPR活動を行った。また、東幡豆漁協が海の生き物を展示し、参加者に海の生物や環境を考える機会を提供した。

##### 【成果③】

- ・ トヨタ財団の補助金を利用して、岡崎森林組合員の山林管理に関するアンケートを行った。アンケート結果については、岐阜県森林文化アカデミーと協働してデータ整理を行い、おかざき森の健康診断報告会の中で発表した。



アンケート結果の報告状況

## 森づくりガイドライン

### 【成果①】

- ・新豊田市 100 年の森づくり構想の概要について、6つの柱（①新しい森林区分（ゾーニング）の設定 ②人工林の整備状況の評価と目標の再設定 ③人工林の目標林型の設定と将来木施業（新たに追加された概念）の導入 ④木材生産・流通の低コスト化 ⑤森林保全のルールの新規設定 ⑥森づくり人材の育成）で取り組み、**特に⑥については、重点的に予算をあてることが情報共有された。**

### 【成果②】

- ・森林環境譲与税と新たな森林管理システムについて、最新の情報を WG 内で共有した。新たな森林管理システムは、森林所有者が自ら森林管理ができない場合、市町村が森林管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に繋ぐ制度であることが周知された。

### 【成果③】

- ・岡崎市が国から交付される森林環境譲与税の使い途について、すべての市民が納得のいく利用は難しいとしながらも、市民との合意形成を図るための環境教育や、林業の普及啓発に取り組む方針であることがわかった。

### 【成果④】

- ・矢作川流域市村における 2005 年度以降の間伐面積の推移について情報共有を行い、各地域の実状について意見交換を行った。

### 【成果⑤】

- ・森づくりに関するフィールドワークを行った（根羽村水源の森、みかわエコ薪、神殿の森づくり会議など）。



豊田市の報告風景



岡崎市の報告風景



フィールドワークの実施状況

## 木づかいガイドライン

### 【成果①】

- ・木づかいガイドライン策定に向けて、「さあ~しよう」という提案型の原稿作成のための依頼書について、実際に流城市町村に配布し、木づかい事例、木づかい活動等の回答を得た。 今後は回答をいただいた市町村への取材を行う予定である。

### 【成果②】

- ・根羽村森林組合では、木づかいに関するイベントを年間40箇所程度開催した。そのうち、半分程度は東京スカイツリーなど流域外でのイベントへ出展した。

### 【成果③】

- ・矢作川感謝祭では、豊田森林組合が高性能林業機械を用いて、枝払いや玉切りを実演した。また、恵南森林組合はマイ箸づくり、根羽村森林組合は動く木のおもちゃ、岡森フォレストーズ（岡崎森林組合）は木の想いを歌にして流域市民に木の想いを届けた。



三河湾大感謝祭における木づかい推進



矢作川感謝祭における木づかい推進

### 3.1 流域圏担い手づくり事例集の活動方針に対する進捗状況

#### 【活動方針】

○事例集の取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることをめざした事例集交流会を4月に実施する。

#### 《進捗状況》

- ・事例集交流会 2018 を開催し、参加者による活発な意見交換が行われ、有意義なイベントになった。
- ・開催地が佐久島であったことから、川部会や海部会所属のメンバーも参加した。三河湾の漁獲量の減少（特にアサリ）の話題では、山側と海側の認識に違いがみられた。このことが、学術的な研究結果をもとに議論する合同部会開催に発展した。

○川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。

#### 《進捗状況》

- ・メーリングリストを活用し、取材者を広く募集した。
- ・信州大学の学生が取材者に加わるなど、取材者に若返りがみられた。一方で、他部会からの新規取材者志願は少なかった。

### 3.2 山村ミーティングの活動方針に対する進捗状況

#### 【活動方針】

○森林組合作業班を中心とした100人ヒヤリングを進める。

#### 《進捗状況》

- ・12月時点で、全体の半数が終わり、データの整理や補助金の窓口への中間報告を行うとともに、今後のヒヤリングの準備を行っている。
- ・次年度は、夏頃を目標に林業関係者を対象とした報告会を行う予定である。

○矢作川感謝祭を流域全体のまつりと位置づけ、さらに発展させていく。

#### 《進捗状況》

- ・今年度は、流域内の全ての森林組合が一堂に会し、流域市民に森づくりや木づかいを伝えた。
- ・東幡豆漁業協同組合（石川組合長）より海の生き物が展示され、市民が流域を意識するきっかけを与えた。

○流域圏担い手づくり事例集や木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

#### 《進捗状況》

- ・矢作川感謝祭では事例集を展示し、市民に活動成果をPRした。また、イベントでは木づかいを積極的に進め、他のテーマの活動成果につながった。

### 3.3 森づくりガイドラインの活動方針に対する進捗状況

#### 【活動方針】

○矢作川流域が直面している課題と、その解決に向けた具体的な提案を、河川管理者、沿岸漁業者、流域市民にわかりやすく示し、広く共通認識を形成することを目的とした「森づくりガイドライン」作成に取り組む。

#### 《進捗状況》

- ・森づくりガイドラインが作成された場合の利用について、予測検討を行った。絵に描いた餅にならないための必要条件を検討した。
- ・今後とも、ガイドラインの必要性について、部会員で検討を行う。

○森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の動きに惑わされることなく、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。

#### 《進捗状況》

- ・国の森林譲与税に対する県市町村の対応について、地域持ち回りのWGにおいて情報共有を行った。
- ・豊田市の100年の森づくり構想の見直し内容など、我が国の先進事例を共有した。

○水循環基本法で定められた森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や自治体の対策をフォローアップする。

#### 《進捗状況》

- ・

### 3.4 木づかいガイドラインの活動方針に対する進捗状況

#### 【活動方針】

○流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。

#### 《進捗状況》

- ・流域の国の機関、自治体等を対象に、県産材（地域材）における木づかい事例・木づかい活動等のアンケートを送り、回答を得た（長野県平谷村、岐阜県恵那市、愛知県岡崎市、安城市、西尾市、碧南市、幸田町など）。

○矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」をすすめる。

#### 《進捗状況》

- ・地域部会や市民部会での議論はできなかったが、部会員の多くが何とか活用できないかと模索している。市民部会では、矢作川流域の共通アイテムとして、流域ものさしの活用を望む声が聞かれた。

○「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。

#### 《進捗状況》

- ・今年度は特に議論されなかった。（次年度も継続？）

○「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所等での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。

#### 《進捗状況》

- ・今年度は特に議論されなかった。（次年度も継続？）
- ・木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型PJは実施されている可能性があるため、再度確認する。

○木づかいを通して、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させる。

#### 《進捗状況》

- ・流域内で展開される木づかい推進（スギダラキャラバンやプレイスメイキング）によって、市民に溶け込んだものとなっている（例 安城図書館、豊田 t-Face の前）